

group exhibition

Time Zones

2024.8.30 金 - 9.10 火

12:00-18:00 月曜休廊

洗川寿華

マイク・チャン

クリスター・オルソン

ピメリコ

清水玲

清水総二

渡邊聖子



Website



Instagram

Waves Project

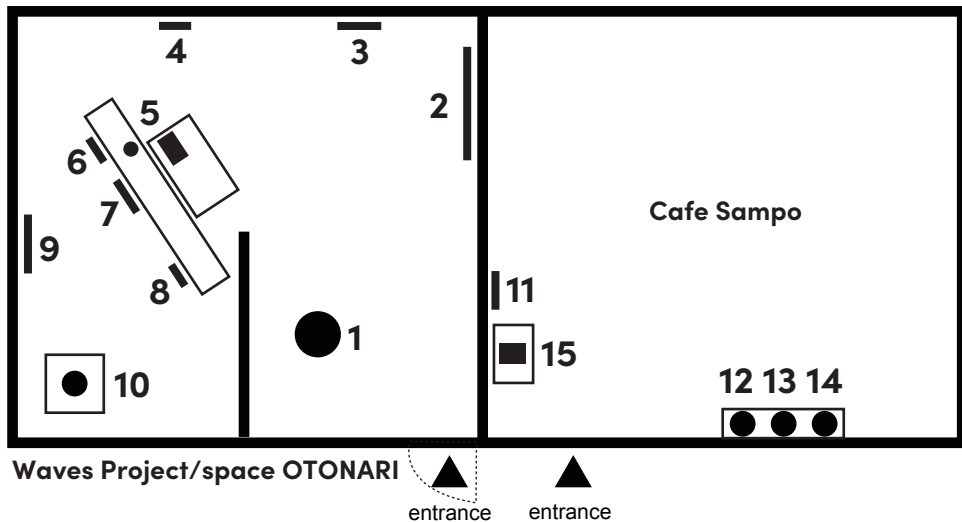
神奈川県足柄下郡湯河原町門川63-1

info@wavesproject.net

www.wavesproject.net

【協力】Cafe Sampo / space OTONARI

【企画・主催】Waves Project



1 ことむけやわす

清水玲

2023, ビニールホース、ポンプ、バケツ、タイマー

「ことむけやわす」とかたちづくられたホースのなかを水が循環している。15分毎に作動する水流は、はじめは泡立ち振動を伴うが、徐々に安定し、次第に水が流れていることが分からないほど穏やかになっていく。「ことむけやわす」とは「言葉で説いて人の心を和らげて穏やかにする」といった意味合いをもつ古事記にも記載がある大和言葉。「言向く（ことむく）=ことばで説いて従わせる、平定する。」と「和す（やわす）=やわらげる、平和にさせる」が合わさった言葉といえる。水流とともに「言（こと）」と「事（こと）」の間で揺れ動くその様は、彫刻化された言霊とも解釈できるだろう。

2 Pigeonary Show

ピメリコ

2007, ビデオ 音声あり

4分57秒ループ

鳩たちが繰り広げる欲深くも儂い愛憎劇と、Zappの80'メロウなラブソング、お笑い芸人、鳩時計の音などを荒削りに組み立てたサウンドから構成される。リアルの鳩とパペットの鳩が登場し、シーンが交錯しながら音にのせられて物語が進行していく。17年前につくった映像作品。

3 Choir

Krister Olsson

2017, 燃やした木材

スタジオの端材を建築的な形につなぎ合わせ、プロパン・トーチで燃やし、均一ではない仕上がりにした。それぞれの端材は、およそ8年間にわたるさまざまな時点のもので、この作品はその8年間をひとつの瞬間に凝縮している。

4 Carrot Theatre

清水総二

2024, 油彩, 粘土 (額)

明確な構図を持たず、絵の中に複数のゾーンを生じさせるような描き方をした。絵に現れる細部から連想して意味をスライドさせながら描き進めるという、脱構築的プロセスの結果としての絵画。タイトルは絵の中にあるんじんらしき形からつけられた。

5 香水 / Parfüme

渡邊聖子

2021-2022, ミクストメディア インクジェットプリント、ガラス、岩塩

6 香水 / Parfüme

渡邊聖子

2021-2022, インクジェットプリント

7 香水 / Parfüme

渡邊聖子

2021-2022, インクジェットプリント

5、6、7について

「3月末に火事に遭い、焼け残った作品を眺めることから今回の制作はスタートしました。最初はそれらを見ることも難しく（作品の持つエネルギーが弱っている自分には過剰に感じられた）、焼け残ったことを喜び、煤汚れを拭いて、箱にしまい直すことを繰り返していました。

黒焦げになったり、放水の水や灰でほぼゴミ状になったネガや作品メモなどを回収することもしていて、それは自分が何が好きなのか、何をいいと思っているかを忘れてしまう作業でもありました。（ただもちろん、なぜそれらを捨てなかったかといえば、黒焦げになり、溶けてゴミ状のそれらと一緒にいると、やたらにポジティブな歌詞の音楽が幻として聞こえてくるからでもありました。）

その中で、今回展示してはいませんが、ピンク色に染まっている夜の橋の写真を見ているときに、自分のハートというか、制作に使う身体の一部が癒やされて動き出すのを感じました。

この色、心の動きと似ているのが、チューリップとスイートピーの写真と岩塩の作品（ガラス額）でした。2021年にSojiくんキュレーションのCanceled Order展にてベルリンのスタジオで仕上げたものです。「何か良いものを知らせる」という意味で香水 / Parfüme というタイトルにしました。（ドイツ語で香水はParfümeではなく、正確にはParfümですが、このままにしています。）

手持ちの岩塩を洗い、写真の中の色を見て、自分が元気が出るプリントを選び展示しました（それは結局ベルリンで展示したまさにそのプリントでした。）

それから、改めて、箱にしまった作品の中で一番好きだった

* 作品を購入希望の方は、ギャラリー / カフェスタッフへお声がけください

たなと思う2点（ピンクの額とグレーの額）を取り出して展示しました。当初の受け付けられない感じは今ではなくて、みていた夢を思い出せる感じがあります。

今のわたしと作品との関係は、新しく読みかえるというか、新しいストーリーを読み取るというか、自分は何をしていたんだろう、と写真／作品という過去の中から、今まで撮って／作ってきたのに読み取れなかった「お話」を肯定しているようです。

3点いずれも接触を写した写真です。前述した「ピンク色に染まっている夜の橋の写真」がなぜピンク色かといえば、指をフラッシュにあてて指の中の血の色を写しているからなのですが、岩塩のピンクの成分は鉄でもあります。血の色、鉄の色、ピンク。なので、今回の3点は、自分でないものも写しながらセルフポートレイト的であると考えています。」

8 inflated Sakura
Mike HJ Chang
2024, 3D プリント filament PLA

桜の枝だが、水に浮くように膨らませた。

9 Untitled (Reflection)
洗川寿華
2019, 紙に水彩

白昼夢の中では、時間がよりソフトでゆっくりと感じられる。時間が経つにつれて、細部は抜け落ち、記憶はますます想像と混ざり合っていく。
この作品は、時間の一瞬が跡形もなく完全に消えてしまわないように、その一瞬を持ち続けることをテーマにしている。

10 金星 (Venus)
ピメリコ
2024, 溶岩、人工毛、真鍮

近所の神社にある、古代人が北斗七星の形に穴を穿ったという蟹座から着想を得た作品シリーズ。
岩盆栽の魅力は、硬く静かで長い年月や旅を思わせる鉱

物と、柔らかくしなやかで日々変化する苔や植物が寄り添って共存するという、時間軸の振れ幅も含めた複数のギャップにある。星座のもつ神話性と岩盆栽の風景を抱き合わせる試み。

11 逆さ時計
清水玲
2024, 時計

ありふれた日常風景の一部のように壁面に時計がかけられているが、よく見ると時計の針は逆戻りしている。さらによく見ると時計の針は逆戻りしているが、文字盤が左右逆になっていて、現在の時間を示している。戻りながら進んでいるように見える逆さ時計は、過去に想いを馳せながら未来に進むということを暗示している。

12 こいぬ座 (Canis Minor)
ピメリコ
2024, 溶岩、フェイクファー、真鍮

13 みなみ十字星 (Southern Cross)
ピメリコ
2024, 溶岩、毛糸、真鍮

14 かみのけ座 (Coma Berenices)
ピメリコ
2024, 溶岩、人工毛、毛糸、真鍮

12、13、14 について

近所の神社にある、古代人が北斗七星の形に穴を穿ったという蟹座から着想を得た作品シリーズ。
岩盆栽の魅力は、硬く静かで長い年月や旅を思わせる鉱物と、柔らかくしなやかで日々変化する苔や植物が寄り添って共存するという、時間軸の振れ幅も含めた複数のギャップにある。星座のもつ神話性と岩盆栽の風景を抱き合わせる試み。

15 LET'S TAKE A WALK BY THE BEACH
Drawings
Mike HJ Chang
2023
書籍 ドローイング集 limited edition of 50

江戸時代の俳人、松尾芭蕉の奥の細道の序文には「月日は百代の過客にして、行き交ふ年もまた旅人なり」とあります。人生そのものが旅のようなものだという芭蕉の人生観も感じられる一文です。

この序文は、李白の「春夜宴桃李園序」の一節「夫天地者万物之逆旅、光陰は百代之過客」に拠ったもので、天地はあらゆるものを泊める宿屋であり、時の流れは永遠の旅人だとしたら、李白は詠いました。

世界各地で憎しみの連鎖が止まらない現状があります。時は過去から未来へと過ぎ去っているのか、ぐるぐると同じところへ巡っているのか。儚く去りゆく月日が永遠の旅人だとしたら、その旅人の行き着く先はどんな場所でしょうか。

2011年から5年間ほど横浜を拠点に活動していた Hayama Projects に関わったアーティスト達が、約10年という時を経て本展示で再会します。

展示空間には作品それぞれが抱える時間領域が並行して存在し、計ることのできない時のうねりを立ち上げさせます。

ピメリコ
Waves Project

2024年8月

洗川寿華 Juka Araiawa
ロサンゼルス、アメリカ合衆国



マイク・チャン Mike HJ Chang
シンガポール



クリスター・オルソン Krister Olsson
ロサンゼルス、アメリカ合衆国



ピメリコ Pimeriko
神奈川県、日本



清水玲 Ryo Shimizu
神奈川県、日本



清水総二 Soji Shimizu
ベルリン、ドイツ



渡邊聖子 Seiko Watanabe
神奈川県、日本

